

サラーム

平和

内容：

- ・現地職員の声
- ・国連人道支援室の速報（#12、10月18日付）
- ・パレスチナ子どものキャンペーン声明
10月8日「悲劇を終わらせよう」
10月14日「犠牲者をこれ以上増やさないで
-即時停戦と人質解放を求めます」
- ・メディアでの紹介
- ・緊急支援へのご協力をお願い

ガザ緊急事態に直面して

会員・支援者の皆様へ

ご存じのようにガザが大変なことになっています。
皆様にも悲しくやり切れない思いを抱いておられると思います。

私たちも絶望感を感じながらも、駐在員と現地職員の安否を確認しております。また現地の声ができるだけ多くの方に知っていただきたく、テレビや新聞等、メディアへの発信や情報提供を続けています。

ガザ北部は焦土と化し、何十万人もの避難者が押し寄せている中部と南部では、水も食料も不足し、住む場所がない人たちが道路で座り込んでいますが、そのそばには遺体も放置されているとか。遺体確認の際に身元不明にならないようにと、人々は手のひらに自分の名前を書いているということです。誰もがこの瞬間も死を覚悟しているのです。

またヨルダン川西岸やレバノンも状況が緊迫をしており、中東地域全体が戦争になるのではと多くの市民はおびえて生活をしています。

パレスチナ子どものキャンペーンでは、状況が少し落ち着いた時点で、多くの人押し寄せている南部地域での救援活動を開始する予定です。緊急支援募金に、またボランティア活動にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2023年10月18日

特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン

代表理事 大河内秀人

事務局長 田中好子

なお、サラームの27号発行の準備をしていたところでしたが、緊急事態のため、今回は号外をお送りいたします。
今回の内容は以下です。自体が刻一刻と変化しているため、お手元に届くころにはすでに状況が大きく変わっている可能性も高いですが、10月19日午後時点での最新情報です。

ガザ緊急支援にご協力ください

状況が少し落ち着いたら、南部での救援活動開始を計画しています。

食糧や水など物資配付や、現金給付などを予定しています。

募金を含めて、皆さまのご協力をお願い致します。ご寄付はこちら↑



寄付先の口座情報は、裏表紙をご覧ください。

*** ボランティアも募集中! ***



Gaza

現地職員の声 (2023年10月16日)

「私はハリール。CCP のガザ事務所で同僚の安全確保を担当しています。現地職員の安否は確認できています。多くが南部や中部に避難をしました。でもほとんど全員が家を失いました。たとえ戦争が終わっても帰る場所はありません。また高齢で足の悪い両親のいる一人は、逃げる手段もないので避難をあきらめて北部の家にとどまるといっています。

私自身は、隣の家が爆撃された時に、コンクリの大きな破片が頭上に降り注ぐなか生後 5 か月の子どもに覆いかぶさってかろうじて命拾いをしました。急いで家族と一緒に車で避難しましたが、途中、100メートル先で他の車がミサイル攻撃を受け、炎上するのを目撃しました。私の車もフロントガラスが粉々になりました。中部まで逃げてこられたのは奇跡だと思います。南へ避難しろという勧告が出ているけれど、道路も安全ではなく、ハンユニスもラファも爆撃されています。安全な場所はない。そして殺されているのは、ハマスではなく一般の人たちです。戦争というと軍隊同士の戦いと思うけれど、ここにいるのは子どもや女性、老人だけです。人々は手のひらに名前を書いています。遺体確認の際に身元が分かるようにするためです。ここでは誰もがいつも死を覚悟しています。

私は現在、中部にある知り合いの知り合いの家に住まわせてもらっていますが、いくつかの病院や国連の学校は人であふれかえり、中部と南部の学校には 35 万人がいるということです。そのため、爆撃の音が響く中、居場所のない多くの人たちが、道路で過ぎしています。道端で横になったり、歩き回るほかなく、多くの人が泣いています。ここでは水も食料も不足していて、水や食料を探し回っていますが、入手は困難です。また道を歩いていると、水が欲しい、お金が欲しいと訴えられますが、何もできないのです。

あれ以来、本当にたくさんのことを見聞きしました。私は何もできず、私には何もない。たとえ無事に生き残ってもこの経験は決して忘れないだろうし、子どもたちも同じだと思います。

いまはインターネットが通じて話ができるけれど、次いつ話ができるか分かりません。これまでありがとう。私たちを支えてくれてありがとう。CCP で働けて良かったです。」



10月10日のガザ地区

ガザ地区とイスラエルの戦闘について 国連人道支援室 速報 #12 (2023/10/18)

<https://www.ochaopt.org/content/hostilities-gaza-strip-and-israel-flash-update-12>

「ガザ地区：死者数 3,478 人、負傷者数 12,500 人」
「西岸地区：死者数 64 人、負傷者数 1,284 人」
「イスラエル：死者数 1,300 人、負傷者数 4,562 人」

・マーティン・グリフィス人道問題担当国連事務次長兼緊急援助調整官は本日、安保理でブリーフィングを行い、人道援助関係者が「ガザ全域で支援を必要としている市民に対し、支障なく、彼らが選んだ場所で、彼らが安全だと考える場所で、私たちがその安全を確保できる場所で、救援物資を届ける」ことができる必要性を強調した。

・ガザ保健省の最新発表によると、10月17日夜、ガザ市内のアル・アハリ・アラブ／パテスタ病院で爆発があり、子どもや医療スタッフ、国内避難民(IDP)を含む471人が死亡した。これは、戦闘が激化して以来、ガザで最も多い死者が出た事件である。この事件を受けて、国連事務総長は「人道的な即時停戦」を呼びかけた。

・ガザ保健省によると、ガザ地区での累積死者数は、10月18日17時現在3,478人で、そのうち少なくとも853人が子どもである。さらに数百人が瓦礫の下敷きになっているとみられている。

パレスチナ子どものキャンペーン声明

「悲劇を終わらせよう」(10月8日)

10月7日にガザからイスラエルへのロケット弾の発射で始まった今回の武力衝突と、信じられないほどの双方の市民の犠牲に強い憤りを感じます。特に、双方の市民が恐怖と憎悪の中に放り出されていることを悲しみ、こうした事態になるまで静観してきた国連安全保障理事会、周辺諸国、カルテットに対して、停戦に向けた最大限の努力を求めます。

当会が母子保健や障がい者支援、教育支援をしているガザ地区は、人口が密集した地域ですが、現在大規模な空爆にさらされ、地上戦も予想される中、人々は怯えています。母子保健の診療所がある地区には、住民へ空爆を予告するチラシが撒かれています。ローカルスタッフは現在のところ安否が確認されていますが、支援を受けてきた人たちの現状は全く分かりません。妊婦や乳幼児、障がい者などは逃げ場を失っているかもしれません。

一方で、イスラエル南部でアラブ人との共存を求めて長年活動してきたユダヤ系イスラエル人の女性は、複数の親族が誘拐されてガザに連行され安否が分からないということです。彼女は長年、南部のベドウィンの村で子どもや女性を支援する活動を続けてきていて、当会もその活動を7年以上支援してきました。

こうした状況を見るに、ひたすら悲しく無力さを感じます。犠牲者となった双方の市民を心から悼み、犠牲がこれ以上増えないことを願います。いまこそこの悲劇の原因であるパレスチナ問題の公正で平和的な解決に、世界は本気で取り組むべきです。

「犠牲者をこれ以上増やさないで
—即時停戦と人質解放を求めます」

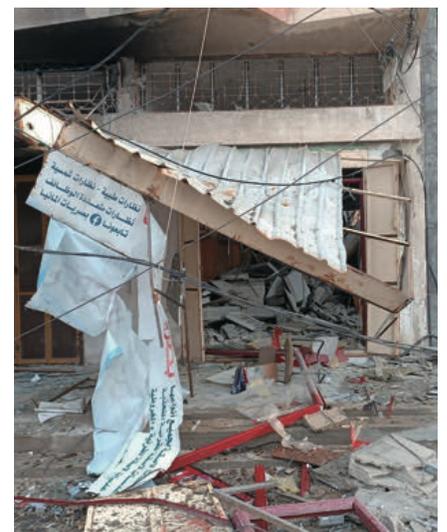
(10月14日)

空爆によりガザの街は焦土と化しています。人々は地上戦を前にして、封鎖された狭い地域、瓦礫の中を逃げまどうほかありません。障がい者や高齢者、妊婦や乳幼児はどうしているでしょう。

普通に生きていたいと考えている人たちがこんな状態に置かれているのはおかしい！偶然にパレスチナに生まれただけなのに不条理です。

私たちは、全ての人間の生存権を尊重し、パレスチナとイスラエル二つの国が平和に共存できることを願ってきました。今回のハマスの襲撃で多くのイスラエルの民間人が殺害され誘拐されたことを断固として非難します。同時に、テロ行為への報復として、ガザに住む民間人の多大な犠牲を顧みないイスラエルの軍事行動は、国際法が禁じる集団懲罰です。私たちは、攻撃によって被害を受けている双方の市民への追悼と連帯を表明し、即時の停戦と人質の解放を求めます。

(裏面につづく)



・ガザの国内避難民の数は約100万人と推定され、そのうちの35万3,000人以上が、ガザ中部と南部のUNRWAの学校に滞在し、ますます悲惨な状況に置かれている。ガザの完全な包囲は続いている。ラファ検問所は閉鎖されたままであり、エジプト側で待機している食料、水、医薬品など、切実に必要とされている人道援助の入国を妨げており、約3,000トンの物資がトラックで入国を待っていると推定されている。イスラエルとの間のエレズ検問所とケレム・シャローム検問所も閉鎖されたままである。

・パレスチナの武装集団によるイスラエル人居住区への無差別ロケット砲発射は続いているが、イスラエル人による新たな死者は報告されていない(10月18日21時現在)。イスラエル当局によると、イスラエルでは全体で約1,400人のイスラエル人と外国人が死亡しており、その大部分は10月7日に死亡している。

・ガザには、イスラエル人や外国人を含め、少なくとも199人が(人質として)拘束されている。安全保障理事会への緊急ブリーフィングで、国連中東和平担当特別調整官のトル・ウェネスランド氏は次のように述べた:「われわれは、2つの緊急目標を達成するための時間と空間を必要としている:ハマスがすべての人質を直ちに無条件で解放すること、次に、ガザのパレスチナ人のために人道援助を迅速かつ制約なく提供することである。

・ヨルダン川西岸地区では、10月17日午後、イスラエル軍がガザのアル・アハリ病院での爆発に抗議活動をしていた3人のパレスチナ人を殺害した。これにより、10月7日以降、イスラエル軍や入植者によって殺害されたパレスチナ人の数は18人の子どもの含む64人に達した。同じ状況下で、パレスチナ人抗議者とパレスチナ治安部隊との間で対立が生じ、子ども1人が殺害された。

・10月7日以降、入植者の暴力と立ち入り制限が強化される中、ヨルダン川西岸のエリアCにある13のベドウィンコミュニティから、少なくとも74世帯545人(うち半数以上が子ども)が避難した。

以上

ガザ地区の封鎖は 16 年以上に及び、非人道的な状態を放置してきた国際社会にも大きな責任があります。パレスチナ問題は 75 年以上解決できないままにされ、30 年前に結ばれたオスロ合意は履行されず、国連決議や国際法を無視した軍事力による既成事実化だけが進んでいます。また 590 万のパレスチナ人が 75 年間難民生活を送っています。

こうしたことから、世界中がますます分断されていく中で、今の状況が、国際社会の分断をさらに拡大し、差別・偏見・憎悪の渦に人々を巻き込んでいくことを心から心配しています。またパレスチナ問題の解決が遠のくことを恐れています。

地上戦が始まるかもしれない時、今後の犠牲を思うと暗澹たるものがあります。悲劇を終わらせるため、私たちにできることは多くはありませんが、停戦への働きかけとパレスチナ問題の解決を改めて呼びかけます。また、逃げ場がなく、水も電気も止められているガザの人たちへの救援活動を、停戦になり次第開始したいと思います。

皆様の様々なご協力をお願いいたします。

ガザ緊急時に際し、現地の声を届けるために緊急シンポジウムや取材協力を行いました。

(2023 年 10 月 12 日～ 10 月 20 日)

緊急シンポジウムへの参加

- ◆イスラーム信頼学緊急セミナー「緊迫するパレスチナ/イスラエル情勢を考える」2023 年 10 月 12 日(木)開催(終了)
- ◆緊急開催!【ガザ地区で何が起きているのか?】映画『ガザ素顔の日常』オンライン上映シンポジウム 2023 年 10 月 14 日開催(アーカイブ配信あり)
- 主催: ユナイテッドピープル株式会社

取材協力

メディアを通してガザの現状、住民の声を伝えるため取材協力を行いました。内容をご覧になりたい方は、ホームページにリンクを掲載しています。

- ◆フジテレビ めざまし 8 ガザ関連報道内 (2023/10/19 放送)
- ◆天井のない監獄「ガザ」からの緊迫証言 週刊新潮 (2023 年 10 月 26 日号掲載/ 10 月 19 日発売)
- ◆「あと 2 日でガザの人たちは死ぬ」絶え間ない空爆…物資なく、避難も困難 読売新聞 (2023/10/18 掲載)
- ◆特集「イスラエルのガザ地区地上侵攻に向け緊張高まる。パレスチナ人の行方は」TBS ラジオ『荻上チキ・Session』ゲスト出演 (2023/10/17 放送)
- ◆「避難ルートまで爆撃」「逃げようがない」ガザ地区支援する NPO スタッフの証言 武力衝突激化で緊張高まる現地の今 FNN プライムオン (2023 年 10 月 17 日掲載、関西テレビ「news ランナー」10 月 16 日放送)
- ◆TBS THE TIME, ガザ関連報道内 (2023/10/17 放送)
- ◆ガザ停戦 外交努力を 赤旗新聞 (2023 年 10 月 17 日掲載)
- ◆瓦礫の山に遺体、地上侵攻迫るガザ 支援団体「早く終わって」産経新聞 (2023/10/16 掲載 動画あり)
- ◆ガザ地区で人道支援を行う NPO「民間人に対するスペースを確保していただきたい」 毎日放送 MBSNEWS (2023 年 10 月 16 日掲載)
- ◆ガザ、パレスチナ、イスラエルから次々悲痛の声 突然の戦闘に現地在住邦人にも衝撃 時事通信 JIJI.COM (2023 年 10 月 16 日掲載)
- ◆ガザから届いたメッセージ「息が吸えないほど緊張」支援の日本人は 朝日新聞デジタル (2023 年 10 月 15 日掲載)
- ◆パレスチナ緊迫…地上侵攻・邦人退避は NHK サタデーウオッチ9 (2023 年 10 月 14 日放送)
- ◆ガザのスタッフからのメッセージ (8 分 37 秒～ 9 分 49 秒)
- ◆まもなく退避期限 ガザ地区で暮らす住民は テレビ朝日 ANN ニュース (2023/10/14 放送)
- ◆ガザ「負傷者の 4 割は子ども」16 年間封鎖でトラウマ深刻 テレビ朝日 サタデーステーション (2023/10/14 放送)
- ◆イスラエルとハマスの衝突 現地で支援行う NPO が報告 NHK (2023 年 10 月 13 日放送)

*一部ご紹介が漏れているものがあるかもしれません。ご了承ください

パレスチナ子どものキャンペーンご案内

パレスチナ子どものキャンペーンは

1986年に活動を開始した市民のNGOです。国籍や宗教、民族にとらわれず、パレスチナと中東地域の平和を願い、そこに生きる子どもたちが希望を持って成長できるように、教育・保健・福祉分野での支援と人権擁護を進めています。また、コミュニティの強化と自立的発展に協力しています。

会員になってキャンペーンの活動を支援してください

- 会費(年会費): 4,000円、6,000円、10,000円(※ご都合にあわせて、金額をお決めいただけます)
- 会報「サラーム」や随時のお知らせなどをお送りします。詳しくはお問い合わせ下さい。

ご寄付をお願いします

ご寄付・募金を常時受付しております。下記の口座にお振込みください。
郵便振替口座 [00160-7-177367] / みずほ銀行 高田馬場支店 [普通8030448]
三井住友銀行 目白支店 [普通6852351] / 三菱UFJ銀行 目白支店 [普通0152056]
銀行からの送金の場合は、領収書をお出しするために、ご住所とお名前をメールやファックスなどでお知らせ下さい。会費のお振込みも上記の口座をご利用下さい。
クレジットカードでもご寄付いただけます。詳しくはホームページ <https://ccp-ngo.jp/> をご覧ください。

税金の控除について

パレスチナ子どものキャンペーンは寄付金の税金控除を受けられる認定NPO法人です。税金控除には、当会発行の領収書をつけて確定申告をして下さい。

特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン(認定NPO法人)

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-23 豊ビル4階 / Tel 03-3953-1393 / Fax 03-3953-1394
Eメール info@ccp-ngo.jp/ / ホームページ <https://ccp-ngo.jp/>
Facebook [パレスチナ子どものキャンペーンnew/](https://www.facebook.com/ccp-ngo/) / Twitter @ccp-ngo



パレスチナ子どものキャンペーン

